

式辞

本日ここに、保護者、来賓の皆様のご臨席のもと、令和3年度、国立高等専門学校機構鳥羽商船高等専門学校第33回電子機械工学科及び第30回制御情報工学科卒業証書授与式並びに第16回専攻科（生産システム工学専攻）修了証書授与式を迎えることとなりこの上ない喜びです。

電子機械工学科の37名および制御情報工学科の46名のみなさんは、5年間の高等教育の課程を修了し、準学士（工学）の称号を授与されました。基礎学理と教養に加えてメカトロニクスや情報応用システムに関する専門知識と技術を身に付けた実践的技術者として成長されました。

専攻科生産システム学専攻を修了された10名におかれては、大学改革支援・学位授与機構の定めた条件を満たし学士（工学）の学位を授与されました。高度の学術と広い領域の専門的学術を修められ、国際的感覚と広い視野を持つ、研究・技術開発と創造能力を発揮できる技術者として成長されました。

皆さんの今日に至るまでの不断の研鑽を称えますとともに、皆さんを物心両面から支えて来られた保護者の皆様に、心からお祝いを申し上げ、今後のご活躍を祈念申し上げます。

卒業生のみなさんに2つのことを申し上げます。

1つめ、地球規模の新型コロナウイルス感染症の感染拡大は社会システムに大きな変革をもたらしました。このような世の中にあって物事を成功に導くためには何が大切か？ まず、短い時間で必要な多くの情報を集める力、これに加えてそれらの情報を編集する力が重要です。5年間の高専の学園生活で成長したで自らを踏まえて、この情報編集力にさらに磨きをかけていただきたいと思います。社会では、編集された情報を踏まえたすばやい決断が求められます。

2つめ、みなさんは在学中にオンラインと登校しての面接授業の2つの授業形態を体験されました。それぞれメリットがあると思われたことでしょう。DX（Digital Transformation / デジタルトランスフォーメーション）が叫ばれて久しいですが、DXとはデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること、新たな価値を創造して革新的なイノベーションをもたらすこととされています。このような社会にあって一方で大

事にしたいこと、それは人と人とのコミュニケーションをしっかりと大事にすること。周囲をしっかりと把握し、スピード感をもって議論しながら「紙に書いて考える」、メモ書きで「考える力」を養うことも必要です。デジタルとアナログの使い分け、試してみてください。

これからの人生、良いこともあれば難しい問題にぶつかることもあります。みなさんはひとりではない。今日ここに集まっている卒業生の友人、保護者、教職員の方々、先輩や後輩たちと絆をしっかりと結んでください。この4月には、我が国に高等専門学校のしくみ、すなわち高専が創設されて60周年の節目を迎えますが、来る令和7年(2025年)は、校祖近藤真琴先生が本校の母体となった航海測量習練所を明治8年(1875年)に設置して以来、150周年の記念すべき年となります。ぜひ学校を訪れてみてください。

本校と産業界や行政機関等との連携を高める国立鳥羽商船高専連携協力会もこの4月に発足することをここにご報告致します。

人生100年ともいわれる時代、みなさんの今日までの不断の努力にあらためて敬意を表します。(全員で拍手) 式辞といたします。

令和4年3月19日 独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校長 和泉 充